



We Find the Way

IR Day 2021

日本事業の強靱化戦略

第2セッション

代表取締役副社長

秋田 進

日本通運株式会社

2021年9月9日

「日本事業の強靱化戦略」の取組



主な取組項目

1. 作業差益の一層の向上（外注費率減の継続）
2. 社有戦力の最大限活用
3. 支店作業会社の再構築
4. 倉庫オペレーションの全体的レベルアップ
5. オフィス業務の自動化・簡素化（RPAの取組加速）
6. 陸海空融合の進化 ～クロスモードセールスの推進
7. プロテクトBOXビジネスの拡販
8. 国内航空貨物の拡販
9. 内航コンテナ・鉄道コンテナの拡販
10. アロー便事業の強化推進
11. 引越事業の構造改革

日本事業強靱化の取組概要

		～2020年度	2021年度	2022年度～
■ 外注費率減の継続		外注費率： 2020年度累計対前年▲3.0ポイント	2021年度1Q累計 (2021年1月～6月累計) ▲3.6ポイント ▲4.1ポイント	
■ 社有戦力の最大限活用		稼働率： 2020年度下半期対前年+3.2ポイント	2021年度1Q累計 (2021年1月～6月累計) +3.4ポイント +3.7ポイント	
■ 支店作業会社の再構築	同一労働・同一賃金への対応	完了		
	再構築（統廃合）			
■ 倉庫オペレーションの全体的レベルアップ			全国435倉庫拠点のレベルアップの取組	
■ オフィス業務の自動化・簡素化	RPAの取組加速	2020年度末時点 78案件	2021年度1Q末時点144案件	
	RPA作成人材の育成		2021年度中 670名育成予定	
■ 陸海空融合の進化	クロスモードセールスの組織的展開			
	拠点・施設の融合			
■ プロテクトBOXビジネスの拡販		2020年7月販売開始	2021年度1Q累計 4,610基（発送基数）	
■ 国内航空貨物の拡販				
■ 内航コンテナ・鉄道コンテナの拡販（Sea & Rail）			2021年8月九州ルート販売開始	
■ アロー便事業の強化	オペレーション改善による生産性の向上		2021年度1Q累計 (2021年1月～6月累計) +7.1ポイント +7.1ポイント	（幹線便積載率）
■ 引越事業の構造改革（プランナー、作業戦力の増強）		引越プランナー：2020年度 820名 引越作業員：2020年度 786名	2021年度 893名 2021年度 999名	
■ 人材のさらなる再配置		2020年度247名		

1. 作業差益の一層の向上(外注費率減の継続)

- グループ会社を含め、陸海空の社有戦力（人・車）を最大限活用し、外注費を抑え、日々のコストコントロールを強化継続
2021年度第1四半期累計 外注費率削減 対前年▲3.6ポイント
(2021年1月～6月累計 対前年▲4.1ポイント)
- 課所単位での業務計画（コスト削減策）を強力に取組中

2. 社有戦力の最大限活用

- 社有戦力の最大限活用として、社有車の稼働率アップを全課所で取組
2021年度第1四半期累計 社有車稼働率 対前年+3.4ポイント
(2021年1月～6月累計 対前年+3.7ポイント)
- 各ブロック・支店内で、簡単な車両マッチングツールを作成し、日々の戦力活用を実施

3. 支店作業会社の再構築

- グループのシナジー効果を最大限に、作業会社を強化
グループ戦力（人・車）の有効活用による作業会社収益の拡大
- コンプライアンス順守の経営を強化（労働時間、同一労働同一賃金対応など）
- 支店作業会社としての役割・将来性・顧客動向の変化を踏まえ、再構築を継続

4. 倉庫オペレーションの全体的レベルアップ

- 業務標準化と科学的・体系的手法による倉庫オペレーションの生産性向上を全社で取り組み中
- 「オペレーションの省力化、自動化」の40業務についても継続して実施中

1 倉庫オペレーション拠点全課所を対象とした生産性向上の取り組み

- 当社倉庫オペレーションについて30項目の評価基準を設定
- オペレーションを伴う全国 **435** の倉庫拠点において、第1回セルフチェックを完了
- セルフチェック結果に基づき、本年度の設定目標達成に向けて、対象全課所で改善活動を推進中

2 特定拠点に対する重点的改善活動の推進

- 業務改善優先度が高い **108** の倉庫拠点を全国から選定し、重点的な改善を実施中

3 倉庫オペレーション生産性向上を推進する中核人材の育成

- 6ヶ月間に及ぶ中核人材育成プログラム “ Logistics boot camp ” を導入
- 当社現場で蓄積した改善ノウハウと科学的分析手順に基づく生産性向上手法をマニュアル化
- 全国から厳選した**17**名の受講対象者に対して、**15**回のワークセッションと実践型トレーニングを実施



5. オフィス業務の自動化・簡素化(RPAの取組加速)

- 現場によるRPAの自主・自律的な開発と展開
現場で開発するRPA (WinActor) 推進により、現場固有の業務処理を自動化。自律的取組を強力に展開

※本社集約・主導によるRPAの開発運用は、本社 (IT推進部) で推進 = RPA (UiPath)

教育および情報共有の継続・強化

- RPAの特徴 (主体性、機動性、即効性) を活かし、現場事務のRPA範囲拡大に向けた意識付けと自動化手法の浸透を継続
- RPA化スキル向上のため、Eラーニングを活用した研修を実施し、取組推進者を育成 (2021年度中受講予定数 670名)

開発済の汎用性のある自動事例を水平展開

- 全国で開発済の汎用性のある自動事例を他支店・課所に水平展開し、RPAによる改善の裾野を広げる (後方支援業務を中心に25業務389件展開)

2021年度目標 (年換算)

案件数 : 300件 生み出し時間 : 60,000時間

2021年度第1四半期実績 案件数 : 144件 生み出し時間 : 25,089時間

6. 陸海空融合の進化 ~クロスモードセールスの推進

- クロスモードセールスの推進
既存顧客に対し現取引モード以外の取扱獲得を全課所で展開

目的

国内ブロック全課所において、すべての既存顧客を対象に、取引のすそ野を拡げるため、現在の取引以外のモードを獲得するための営業活動を展開

具体的取組



- 拠点、施設のさらなる統合
さらなる陸海空拠点・施設統合を検討・推進 2020年度~21年度 25拠点

7. プロテクトBOXビジネスの拡販

2020年7月から全国展開開始

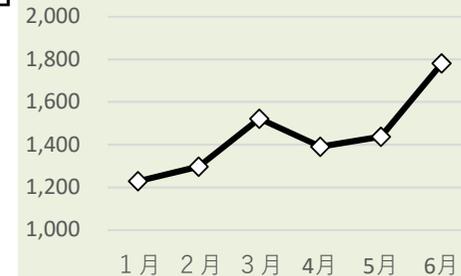
2021年4月から既存サービスを整理し「**プロテクトBOX ~~ビジネス~~**」としてリニューアル

プロテクトBOX ~~ビジネス~~ サービスの特徴

- ・小口輸送に最適でビジネスで手軽に使えるサイズのBOXを活用
- ・陸・海・空の全ての輸送モードで利用可能なマルチモードユニットサービス

2021年度第1四半期 発送基数実績4,610基 (対前同178%増)

2021年1月~6月発送実績



小口貨物の輸送に適したサービス

プロテクトBOX ~~ビジネス~~ レギュラー



サービスの特徴

- ・ビジネスで手軽に使えるサイズのBOX
- ・貨物の汚破損防止
- ・梱包コスト削減
- ・セキュリティ対策 (施錠可能)

急送品
オプション
サービス

全国翌日配送を提供するサービス

プロテクトBOX ~~ビジネス~~ ハイスピード



環境重視
オプション
サービス

環境にやさしい輸送でCO2削減を可能にするサービス

プロテクトBOX ~~ビジネス~~ エコ



CO2排出量削減
・環境配慮商品

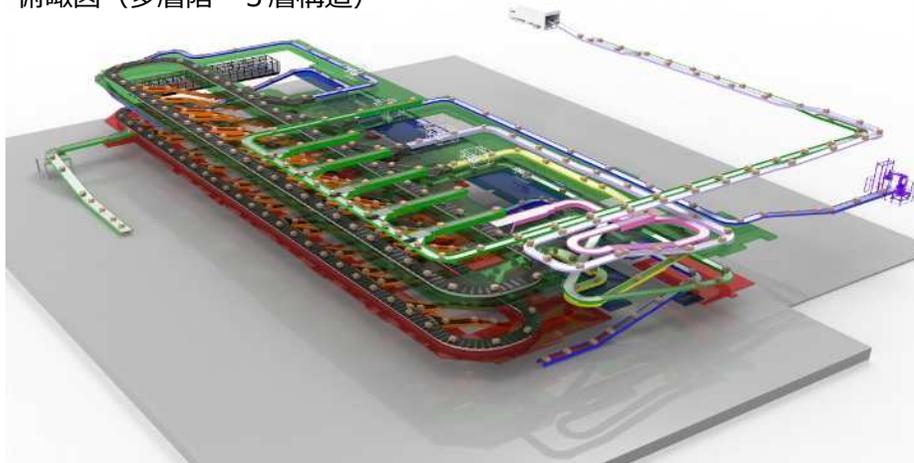
8. 国内航空貨物の拡販

➤ 羽田京浜島航空貨物センター リニューアル (2021年5月 竣工)

羽田空港に隣接する羽田京浜島航空貨物センターを刷新、仕分処理能力の大幅向上と作業の効率化・省力化を実現。

羽田空港を発着する航空貨物をよりスピーディーかつ安定的に輸送できる基盤を整備。

俯瞰図 (多層階 3層構造)



成長性の確保

・主要自動仕分機能力 約2倍

サービスの向上

・サービス (定時性)、品質 (破損事故低減) の安定的な提供

省力化自動化

・労働力不足に対応する省力化と自動化 (仕分員▲10%、作業時間▲30分/日)
・自動仕分率 (70.5%⇒92.7%)

➤ 国内航空貨物の拡販サービス

- ・ エクスプレスハイスピード : スピード&定時性を提供する航空混載サービス (医薬品・医療機器・保守部品・生鮮貨物)
- ・ エクスプレスハイグレード : セキュリティを提供する航空混載サービス (個人情報・信書・貴重品)
- ・ まとめ出荷サービス : 複数の受注を納品先ごとに1口に合わせて出荷・納品するサービス
- ・ スマホまとめてコンポ : 複数のスマートフォンやタブレット端末を専用ボックスでまとめて輸送するサービス

9. 内航コンテナ・鉄道コンテナの拡販

➤ 『Sea & Rail九州ルート』の販売開始（2021年8月2日～）

Sea&Rail 北海道ルート 九州ルート

鉄道輸送と海上輸送を融合させた国内複合一貫輸送サービス。

- 東北・甲信越エリア及び九州エリアを鉄道と当社の内航船舶輸送の九州航路でつなぐ、国内複合一貫輸送サービスを展開
- 環境にやさしく安全な輸送サービスであり、ESG経営に貢献
- 自動車運転業務の時間外上限規制に対する解決策として効果的
- 異常気象などの自然災害発生時に輸送障害区間の回避策となりBCP対策に有効

長距離輸送に最適

脱炭素社会に有効

Sea&Rail 九州ルート

海上輸送

鉄道輸送

鉄道輸送 (海上輸送) 北海道ルート 九州ルート

10. アロー便事業の強化推進

- ▶ オペレーションの改善による生産性の向上
 - 集配体制の効率化
 - 日・祝日の配達見直しにより集配車両を大幅削減
 - 幹線便体制の見直しによる効率化
 - 幹線便積載率の向上 +7.1ポイント改善（2021年度第1四半期の平日平均）
（+7.1ポイント改善（2021年1月～6月の平日平均））
- ▶ 新商品の拡販および顧客の深耕による売上の拡大
 - プロテクトBOXビジネスレギュラーの拡販
 - クロスモードセールスの推進

11. 引越事業の構造改革

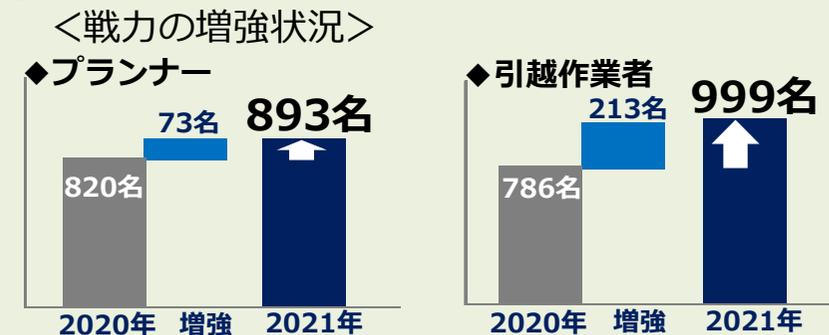
- ▶ 当社の優位性を活かした体制整備
 - 主要事業として全課所で取組む体制の確立
 - ➡法人顧客及び需要増時期の個人顧客をターゲットにした戦力の強化と拡大

- ①プランナーの増強
- ②引越作業者の増強
- ③リモミ®の更なる活用

下見KPI目標達成に向けた下見実施件数の拡大

週末をはじめ需要増時期における戦力の拡充

コロナ禍における非接触ニーズがさらに高まる中、法人顧客、遠隔地、夜間等を含め、更なるデジタルツールの活用により顧客利便性、事務効率化の向上、下見実施件数の拡大を図る。





本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却等を勧誘するものではありません。

また、本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告無しに変更されることがあります。

万一、この情報に基づいて、こうむったいかなる損害についても、弊社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。